

「今月の1枚」



ヤマモモ (*Myrica rubra*)

研究所構内のヤマモモの実が赤く色づきました。濃い緑色の樹冠の中に散りばめられた赤い玉は、梅雨間の青空によく映えます。花もまた鮮やかな赤で、学名の*rubra*（赤い）はそれに因んだものです。粒ばった赤い実は甘酸っぱく季節の味。高知県や徳島県では優良品種が選抜されて栽培され※、ちょうどこの時期、国道沿いの売店やスーパーの果物売り場でも見かけます。生食のほか、果実酒や、ジュース、アイスクリームやゼリーなどのお菓子にも使われます。高知県では県の花、徳島県では県の木に指定されており、四国の人々に親しまれる木であることがうかがえます。

果実の他にも利用価値が高く、樹皮は生薬のほか、染料として利用されてきました。窒素固定を行う放線菌を根に共生し、排気ガスにも強いことから、治山樹、街路樹および庭園樹としてよく植えられています。

モモの名がありますがヤマモモ科に属し、この仲間の多くは熱帯に多く分布します。ヤマモモは本州の関東南部以西、四国、九州、沖縄からさらに朝鮮半島南部、台湾、中国、フィリピンに分布し、自生では海岸に近い標高の低い照葉樹林内でよく見かけることができます。（※栽培品種は四国支所樹木園に集植されています。お越しの節はご覧下さい）

（文：倉本恵生， 写真：加藤隆 2004.6.18 四国支所構内にて撮影）